

「あなたのそばで県議会」（始良・伊佐地域）

開催日時 平成28年8月11日（木）午後1時～午後3時

開催場所 国分シビックセンター多目的ホール（霧島市国分中央三丁目）

参加者 一般県民127名 県議会42名

内 容 ①議会活動等説明

②「若者の視点で考えるこれからの始良・伊佐地域 ～18歳選挙権時代を迎えて～」

【高校生・大学生等の部】

大口高校代表者

- ・ 文化，スポーツ活動の今後につながる活性化策や地元のプロチーム育成などについて、どのような計画があるか。
- ・ 今年，選挙権が18歳まで引き下げられた。18歳になったら進学で地元を離れてしまうが，誰を選んで投票すればいいのか不安がある。また，議員からみて，若い有権者に対する意識はどのように変化したか伺いたい。

（下鶴議員）

地元で活躍するプロチームがあるということは，子ども達が「あんなりたいな」ということで競技に打ち込むこととか，観光振興においても大きな効果がある。

現在の活性化策としては，プロサッカーの鹿児島ユナイテッドFCに約3千万円ほど，バスケットボールのレブナイズ鹿児島に3百万円ほど，観光PRをお願いする予算として確か県が委託をしていると思う。今後の活性化策を考える時に，大きな論点として，本県のスタジアムないし，ホームアリーナの問題がある。Jリーグでは，今後J2，J1を目指して行くには，それぞれの規格に応じたスタジアムというのが必要になってくる。万一，「そのスタジアムではだめだ」と言われたときには，これをどうやっていくのか考える必要がある。もう一つ，ホームスタジアムで年間の試合を何割以上やりなさいという仕組みがあり，プロのチームが，使うとその分アマチュアのスポーツが使えなくなるという，競合の問題が生じてくる。このことは，今後，しっかりと考えていかなければいけない課題になってくる。

（伊藤議員）

私も19歳の息子がいる。参議院選挙，東京都知事選挙があり，その時に，同じ内容の質問を息子から受けた。息子にも，「まず投票に行くことだ，いろんな情報はインターネット，スマホでもPCからでも情報を得ることができる。選挙に出ている人は誰なのか，しっかりと把握して，自分の考えと一致した人に投票しなさい。」と言っている。選挙に行けば自分の政治的な立ち位置が見えてくる，投票することによって，その人を注目する。そのことによって，この人じゃなかった。この人で良かった。という形が見えてくると思う。

若い世代に対する意識はどのように変わったか、ということについては、私は、小学生から高校生まですてニスを教えており、若者とは常に一緒に行動していたので、意識的な変化は自分の周りではなかった。若い人たちの意見を積極的に取り入れようという形で選挙にも出馬したし、できるだけ若い方から高齢者の方々、いろんな意見を取り入れた議員活動をしていこうと思っている。

(郷原議員)

周りの方々といろいろな意見交換などが投票行動に反映されるんじゃないかなと思う。家族、友達、テレビ、いろいろな情報媒体があると思うが、それを自分なりに考えた上で、しっかりと投票行動に移すということが大事なことではないかと考える。

若い有権者に対する意識の変化ということであるが、選ばれる側としては、いろんな要望を受けたりするときには、この方が投票する方かどうかということが、皆さんの言うことは聞かないといけないという前提の上で、大事なことではないかと感じる。その時に若い方々の投票率が低いということは、選ばれる側からすれば、若い方々の要望等について自分自身の行動になかなか移しにくいということになる。選挙を通じて自分自身の意見を訴えるということが、投票率を上げるということが、若い方々の声を政治に届けることに直結すると思うし、若い方々の声を政治に届けるというためには、若い方々が積極的にどういう場合でも選挙に行くということが求められるのではないかと思う。そういった意味でも、入れられる側の意識というものも、変わってくるのではないかと考える。

加治木高校代表者

- 川内原発の再稼働について、原発周辺の住民達はたくさんの不安を持っていると思うが、そういう住民達の不安を取り除くためどのような取組を行っているか。
- 選挙権が18歳まで引き下げられたことについて、加治木高校では、生徒会選挙の時に選挙管理委員会から実際の選挙で使う道具などを借りて、実際の選挙に近い空間を再現することで生徒の意識を高めているが、他にどのような取組をすることで、18歳になったときに正しい判断で選挙を行うことができるのか伺いたい。

(堀口議員)

原発問題は、大変デリケートで重要な問題と私どもも受け止めている。新しい知事は、県民の不安を解消するのが知事としての仕事であるとのことで、原発を一時停止して検査をすべきであると言っている。知事に原発を止める法的権限というのがない。もちろん議会にも議員にもない。規制委員会というのがあり、新しい規制基準に応じて審査され、再稼働したわけである。県議会の総務委員会も川内原発を視察し、中も見させていただいた。その中で感じたことは、大変整理されており、安全に運転されている、安全管理が行き届いているなということである。9月議会で新しい知事の施政方針演説が行われる。その時点でいろいろと中身が分かってくるのではないかと考えており、議会と

してもいろいろ対応していける部分があると思う。皆様方と一緒に、不安は解消していかなければならない。いろいろ勉強させていただいて、議会としてできることをこれからやっていきたい。

(松田議員)

模擬投票を学校でされたという話があった。今日、入口に選挙道具の展示コーナーを準備させていただいた。他の取組は何があるかと話があったが、やはり情報をどう捕まえるか、また、情報のうち良い物と悪い物をどう見比べるかというのが重要である。身近な大人の方にいろいろご相談しながら決めていただきたいと思う。

加治木工業高校代表者

- もっと情報リテラシーの理解を高めるために、学校では授業、地域では講演などをして、子どもから高齢者までがネット犯罪の危険性について同じ考え方を共有できるようにし、それによりネット犯罪がどういったふうにして起きるのかを理解でき、ネット犯罪の防止へつながるような対策を取っていけばいいのではないか。
- 街中や公共施設などに歩きスマホなどの行為がしづらくなるような啓発の張紙や看板を掲載することにより、歩きスマホなどをしづらい環境ができ、それが危険の防止になるのではないか。
- 高校生にとって選挙をもっと身近にするために若い世代を投票に向かわせることのみを推進するのではなく、そういった若い世代の親にあたる世代をもっと投票に向かわせるための対策を取り、それにより若い世代の投票率の向上へつなげてはどうか。

(田畑議員)

情報リテラシーの理解を深めるためにも学校と地域と共通理解を図るということであったが、委員会の中でもよく出ている問題である。9月議会もあるので、その時に委員会の方で学校の子供達に対して、犯罪にならないように、理解を深めていただくような指導を行っていただくよう、お願いしていきたいと思っている。

私たちも、県民の一人として、ネットを利用する人間として、しっかりと、アンテナを高くして、今どのようなネットの犯罪があるのか、そういったものを把握しながら、自分達でも気をつけていかなければいけないと思っている。この問題についてはしっかりと指導するよう、委員会の方で議論していきたい。

(松田議員)

若い方々の投票率の向上をどうすればいいか、という話と類する部分で、親世代の投票率の向上というのは、言葉として響いた。まさに我々の世代がどう動いていくか、それを子どもが見ているということを提言として承った。このことは本当に深く受け止めていきたいと思っている。

スマホマナーの向上，ポケモンGOがスタートして，賑わいもある良い面と悪い面が報道されているとおりであるが，これについては啓発ポスター・看板を含め検討すべき材料だと思っている。

隼人工業高校代表者

7月14日に日当山の温泉街で冠水被害があった。天降川でも，車の水没被害が起こった。イギリスの会社で開発された「トップミックスーパーミダブル」というアスファルトは，1分間で1平方メートルあたり600リットルの水を瞬時に浸透できるという優れたものである。普通のアスファルトとは違い，コンクリートの上に水をためないで地面に逃がす。地面に逃がした水はパイプに集めて直接海に流す。この方法なら水害を抑えることができると思う。このアスファルトは低コストで導入可能らしいので，資金面の心配も少しは軽減されるのではないか。これを導入することにより，始良・伊佐地区の水害対策が向上すると思う。

(前野議員)

水を通す舗装は既に行われている。降った雨がどんどんしみこんでいく舗装が，特に市街地のあたりには，施工されている。このことで，水害が全て解決をするということではない。7月14日に天降川が氾濫をしたが，あまりに急激な水位の上昇で，駐車している方々が車をどける時間もなかった。いずれにしても，大きい川を整備して，市街地あるいは住宅地に降った雨をなるべくスムーズに川あるいは海に導く方法を県でも鋭意整備をしているというのが現状である。

(田之上議員)

日当山の水害については，私ども地元の県議会議員4名，県の土木部，市の職員で現地を見た。このような水害がなぜ起こったか原因究明し，今後，どのような対策をとるかということをしっかり議論していきたいと思っている。

国分高校代表者

この辺りは，まだ栄えていて街灯とかもあって明るいですが，ちょっと田んぼの方に行くと街灯が少なく，夜，どうしても極端に暗くなってしまい，事故等が起こる可能性も高く，また，夜の犯罪等も増える。そこで，防犯カメラを設置すれば，犯罪の抑止力等にもなると思う。

(田畑議員)

夜間暗いところについては，まずは先に防犯灯を設置し，それから防犯カメラなどの設置をしていけば良いのかなと思う。奄美市では市街地に防犯カメラを設置しているとのことであった。これは，事件・事故があった時に，商店街のカメラが役に立ち，検挙率が上がったとのこと。奄美では，商店街にまず設置しようということで警察から商

店街に働きかけてお願いをしているということを知った。霧島市あるいは鹿児島県警と一緒に、連携を取りながら協議していかないと厳しい問題だと思う。市がするのか県がするのか、また管理などの問題もでてくると思うので、霧島市と鹿児島県警と一緒に議論していただければと思う。

国分中央高校代表者

今回、鹿児島県でアーティストのライブが行われた際に、他県から多くの観光客が訪れ、経済的に良くなったということを知った。今後の鹿児島県の発展のためにも、多目的ドームがあればいいと思う。

(桑鶴議員)

あったらいいですね、私もそう思う。そして、このような施設を作って大いに活用している県もいっぱいある。見本市や物産展や各種イベントやできれば大きなコンサートもやりたい。室内で行われるようなスポーツ大会もあっていいと思う。ただ、考えなければならないのが、鹿児島県は1兆6千億円余りの借金を抱えている。そして、自主財源比率が3割に達していない。国からの交付金、補助金で運営している。だから、作るにあたり、財源の問題を考えなければならない。そして、どこに作るかが問題である。南北600キロの鹿児島県で、一番集まりやすいのはどこか、そして、全国から集めやすいのはどこか、集まったときに宿泊施設があるのはどこか、もう1つは、どんな機能を持たせるか、せっかく作ったのに稼働率が悪いといけな。これらのことをしっかりと勘案しながら、我々も有意義な提言だと思って受け止めさせていただきたい。

鹿児島工業高等専門学校代表者

2020年に行われる国体についてのスポーツ施設の建設と観光についての意見を述べたい。まず、移動のことを考えてスポーツ施設をできるだけ狭い範囲にまとめ、最寄りの駅からのシャトルバスを運行する。シャトルバスを運行することで交通の便が良くなり、地元住民でなくても来やすくなると思う。次に、その近辺に宿泊施設を含めた、始良・伊佐地区の特産物などを扱う複合施設を作り、新しい観光スポットにする。特産物を扱うことで、この地区にあるたくさんの魅力を知ってもらう良いチャンスになると思う。また、施設内に小さい子から大人まで遊べるアスレチックパークを設置した場合、汗をかいた後に温泉に入ろうと思う人が増えるのではないかと考える。そして、国体が終わった後たくさんの観光客に来てもらうためには、これらの施設のデザインに力を入れ、おしゃれにすることで、SNSへの投稿を促進し、効果的なPRをしていく必要があると考える。

(長田議員)

国体だけでなく、国体の後をどうするかというところが大事であって、時系列で物事を考えたときに、どのようなレベルの施設が必要なのかということと、目的、それが

スポーツなのか、観光施設なのか、お金をどうやって捻出するのかということ。もう一つは、地元の市町村で、それが本当に必要なのかというところを考えながらやっていくことが必要となる。また、スポーツと経済効果をどう結ぶべきかということとボランティア団体、NPOと地域を含めた形で、1つの施設を機能させていくということが大事なのかなと思う。これから夢や希望をどう実現できるかということをお我々議会でしっかりと議論していきたいと思う。

第一幼児教育短期大学代表者

鹿児島県は農業が盛んで自然も豊かであり、子ども達に遊びを提供できる場がたくさんあると考えている。私達は幼児教育者を目指す者として、鹿児島の自然・特長を活かして次世代を担う子ども達に農業に親しみを持ってもらいたいと考えている。そのため、現在あるグリーンツーリズムや食農教育の場をもっとPRするために、SNSに投稿したり、市報に載せて大々的にPRすることを提案する。

(寺田議員)

日本で育てられている農産物に対するトレーサビリティ、いわば履歴について、この国の制度は、世界で最も進んでおり、履歴をしっかりと調査して表示していく制度となっている。それを基にして食育は、これからの将来を担う子ども達の、健康面をしっかりと図っていく面で、非常に大事な課題だと思っている。

鹿児島の農産物に関しては、南北600キロという地域、地勢を利用して、農産物をリレー生産という形で、1つの生産物を県内で3地域、産地は違えども、同じものをずっと県産品として提供できるシステムがある。本県の農業は、観光と同じく基幹産業であるので、県当局も、各地域の県議会議員も農業に関する振興に関しては非常に興味を持ち、また積極的な発言をしている。我々県議会として、県当局としっかりと歩調を合わせながら、前に進めるようにやっていきたい。

【若者・一般の部】

県民A

5月11日霧島永水のメガソーラ建設現場の調整池が満杯になり、これ以上の雨が降り続くと洪水が発生するおそれがあった。その後、鹿児島県と霧島市が厳しい指導を行い、復旧工事のみを認め、メガソーラ建設工事は中断している。ところが7月14日、再度調整池が満杯になった。

平成27年5月にメガソーラ建設の認可が下りた。地元住民は事業者から「シラス地の豊富な施工実績がある」との説明と「万全の防災体制を構築し決して地元には迷惑をかけない」との確約を受けたことから同意したが、その約束は守られなかった。住民は、災害が発生してからの後追い県行政に不信感を持っている。下流域の田への濁水の流入、鮎などの河川漁業への悪影響などが懸念される。

山間地域の開発案件について県議会はどのような考えか伺いたい。加えて責任の持てる県の許認可行政を要請したい。

(井上議員)

今年5月10日の夜半からの大雨により、林地開発許可地の一部が著しく浸食され、その土砂が主要防災施設である調整池に流入した。そして、4つある調整池のうち、2つが機能せず、下流の田んぼ等への影響も危惧される状態になったということであった。

県は、これに対して、土砂流出発生後、速やかに現地調査を行い、1つには地盤改良や張芝工がまだ施工されていない地域があったということ、種子吹付後の発芽が十分でない部分があったということ、また、土砂の流出を防ぐための仮設土のうの設置が不足していたということ、仮設排水路の表面保護が足りなかったというような、施工中の雨水対策が不十分であったということから、事業者へ対策を指導し、事業者は調整池の機能の回復、沈砂池の増設、表面浸食の抑制や土砂流出防止対策及び泥水の開発区域外への流出防止対策などを行うということに取り組むことになった。ただ、その後、6月27日から大雨があり、7月13日から大雨がありということで、著しい土壌浸食が重ねて発生したということもあり、県としては、その都度、現地調査を行い、事業者に対して、必要な対応を行うよう指導してきたという報告を受けてきたところである。

山間地の開発案件、林地開発ということに対して、事業者の方は事業を行う場合は、地元の自治体、地元の住民の方々に対する説明をしっかりと行って、その理解を取り付けながら、県の担当課の方に事業の許可を受けるという手順をとっていく。地元の理解を前提としながら、県としては、その内容が、環境の破壊にならないのか、住民に迷惑をかけないか、地域や県全体の振興策につながるか、いろんな観点から、検討して許可を出すということになる。その後、工事がスタートするということであるが、県議会としては、今回みたいなことがあった場合は、必要に応じて現地調査をしたり、所管委員会が県当局の対応状況を聞いたり、それに対する意見を言うというような努力をするようにしている。

(向井(た)議員)

私も地元議員として、現地も見だし、明らかに問題が起こったということ認識して、6月の代表質問で、執行部に対して、今後の善後策をどうするのかということ質問した。執行部もその考えの手立てを取るということで、進行中であろうと思うが、いっぺんには解決はつかなかった。これは許認可とそれを監督するところで、これからもやっていかなければいけない。議会としても議員としてもそう思っているし、これ以上のことが起こらないよう、また、同じような開発申請があったときに、この点を反省材料として、どういうふうにしていくのか、いろんな開発には、メリットもありますけどデメリットも起きかねない。そういうことも議会としても注視しながら、執行部に対してしっかりした判断をさせる、議会は、そういう立場でいくべきではないかと思い行動している。

県民B

今年4月に発生した熊本地震、5年前の東日本大震災、そして発生がささやかれている南海トラフ地震など、いつ大災害が起きてもおかしくない昨今である。いざ事が起こった時、防災体制や避難経路の確保は必要と考える。ところが、この地域をみたとき、まだその備えが出来ていないと思う。道路情勢ひとつをとっても、整備が必要ではないか。地域の安心、安全の為に、今後のまちづくりについて県議はどのように考え、また県に対しどのように訴えていくのか。

(堀口議員)

熊本地震を教訓として、どのようなことが、これから鹿児島で考えられるのか、防災体制、危機管理体制、防災対策、これらの見直しでできるところはちゃんと見直しをして、県民の方々に伝えていく。そういうことをやっていかなければならないのではないかと。熊本は、隣県であるので、支援するのはもちろんのことであるが、どこで起きてもおかしくないのと、鹿児島県も教訓として、これをしっかりと捉えていくべきであると考えている。

南海トラフ地震の防災対策については、県として、南海トラフ地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法の規定に基づき、南海トラフ地震防災対策推進地域を設けている。43市町村の中で、出水市だけが入っていない。42市町村は国が指定をしている。指定基準というのがあり、震度6以上の地域、津波高が3メートル以上で海岸堤防が低い地域となっており、霧島市、伊佐市、始良市、湧水町全て入っている。

当然、県としては、対策推進計画を作っていくが、各市町村と、しっかりと連携を取って、県民、市民の方々に安心していただくような、避難道路等をお示しし、情報を伝えていくことが県としての仕事ですので、これからはしっかりと対策を取っていただきたいということを、議会としても申し入れていきたい。

(桑鶴議員)

鹿児島県は、社会資本整備、特に道路整備については、他県に比べて少し遅れている

のも事実である。とにかく交通ネットワークを早く築いて、他県並みに物流や観光、そして地域間交流を促進するという目的で、「高規格道路」いわゆる高速道路、それから「北薩横断」などの「地域高規格道路」の整備を重点的に進めているところである。

生活道路の整備、地域に密着した県道の整備であるが、現在、あっちこっちで事業を実施している箇所があるので、実施している工事箇所の完成を急がなければならない。そして、非常に厳しい県財政ではあるが、残る未改良区間も地域の皆様方の要望を聞きながら、協力体制や優先度を総合的に勘案しながら、事業の峻別化をしっかりと図って、対応していかなければならないと思っている。防災・減災対策については、緊急に輸送道路を確保する観点から、これらの道路の整備と同時に、橋りょうや法面の整備を急いでいくという方針の下に進めているところである。

県民C

私たちの住んでいる「清水地区」には、小枝川と手箒川の2つが錦江湾に流れている。どこを見ても、寄州がすごい。寄州の除去はできないか。

それから、この川を何か有効利用はできないものなのかなと考えている。小枝川の近くに小学校がある。そこは、学習の場にもなっているので、なんらかの方法で有効活用できたらと思っている。

(鶴丸議員)

川が流れているところに上流から土が流れてくる。すると川幅が狭くなって、水が流れにくくなるような状態があっちこちに見える。そういった状況が寄州であるが、こうなると大きな洪水、大雨が降った時に、水害のおそれがあるということで、寄州の除去というのは県内全地域での大きな課題である。特にこの地域については、地元議員も質問をしている。今の県の考え方では、特に力を入れて5年間かけて、しっかりやろうということで、22年から27年度までの5箇年で集中的に予算確保をして、取り組んだ経緯がある。前の知事もそうであるが、寄州除去については、引き続きどうするのかという検討がされていたようであるが、新しい知事もマニフェストの中で寄州除去について取り組みたいというような話もしている。県議会としては、非常に大事な課題だと思うので、要望をしながら、予算の確保と実現に努めていくことが必要ではないかと考えている。

河川の利用はいろんな利用の仕方があると思うが、霧島市のこの河川は、地域の皆さん方が草払いをして管理している。草払いをした後に地域の皆さん方が親水性の河川・護岸というのが作れないかという話ではないか。県内いくつかのところで例があると思うので、地域の皆様方の声もお聞きして、連携して一体となって考えて進めていくべき課題ではないかと思うので、今後、その方向で、皆様方と勉強させていただきながら考えさせていただきたい。

県民D

歩きスマホの件について、看板等での規制は不十分に思う。なぜなら、不法投棄の看板をよく見かけるが、ゴミは捨てられたままになっており、歩きスマホの過失による事件があった際の罰則等を条例で定めることによって、事前に防げるんじゃないかなと考える。不法投棄では誰がゴミを捨てたかというのは分からないが、歩きスマホは、事件であれば確実に取り締まることができるので、減らすことができるんじゃないかと考えるがいかがか。

(松田議員)

事故が起きてからの処罰の方ももちろん大事であるが、それが起きないためにする方法も大事である。だから、両面でやっていかないといけないなと思っている。私は小学校のPTA会長をしているが、学校でもスマホをどうするのかというのはPTAでも大きな議論にもなっているので、これはしっかりと見ていきたいと思う。